

(対象事業：地域連携強化事業、地域文化資源整備活用事業、ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：コレクション鑑賞教材制作・普及事業

事業者名：和歌山県立近代美術館

住 所：和歌山県和歌山市吹上 1-4-14

T E L：073-436-8690

F A X：073-426-0760

H P アドレス：<http://www.bijyutu.wakayama-c.ed.jp/>

連携事業者名：和歌山大学教育学部、和歌山県美育連盟、和歌山市美育協会、NPO 和歌山芸術文化支援協会、和歌山県近代美術館図書ボランティア、和歌山県立近代美術館友の会

会 場：和歌山県立近代美術館

事業期間：平成 21 年 7 月 25 日 ～ 平成 22 年 2 月 27 日



和歌山県立近代美術館（右奥は和歌山城）

1. 館の使命と本事業の関係

館の使命のひとつ「地域住民の参画を得ながら、地域の歴史、文化等に関する質の高い美術館活動が行われるよう、子どもや地域住民が地域の美術品や文化財に触れる機会の提供を支援するとともに、広域的な地域連携や館種を超えたネットワークを構築していく」と、「地域のコレクションの魅力を親しみやすく、わかりやすいかたちで県民や美術愛好家に伝え、共有する。この事業自体も地域住民の参画を得ながら実施する」という本事業の目的が一致している。

2. 企画内容

①事業目的

和歌山県立近代美術館のコレクションの魅力を、親しみやすく、わかりやすいかたちで児童生徒をはじめとする県民や美術愛好家に伝え、共有するために、鑑賞教材を県内の教員やボランティアグループらと連携しながら制作し普及することを目的とする。

またこの制作と普及の活動を通じて地域文化の活性化に寄与するとともに、地域における美術館の活動基盤を整備することを目的とする。

②事業概要

『美術百科「ここはどこ」の巻』展(平成 21 年 12 月 19 日(土)～平成 22 年 4 月 11 日(日))は、当館コレクションの魅力をさまざまな視点から紹介するシリーズ企画の 8 回目である。今回は、作品に描かれた場所や空間をとりあげ、「ここはどこ？」という問いに答える展覧会であった。

同展の開催にあわせて、児童生徒をはじめとする市民が当館のコレクションに親しめるような鑑賞教材を制作した。

この目的を達成するために、美術館教育の専門家 2 名を講師として招いたレクチャーや、他館の教育普及ワークショップ調査などを行い、先進事例に学んだ。そして県内の教員やボランティアグループ等を中心とした協力員たちと研究・協議・作業を重ね、教材を完成させた。展覧会会期中には、教材を用いたワークショップを、県内の小学校からバスで児童等を美術館に招いて行うなど、同教材を普及する活動をおこなった。

3. 事業実績

(1) 事業の主な内容及び日程

コレクション鑑賞教材制作・普及事業



10月3日(土) 第3回会合 鑑賞カードについて検討中 ↑ 1月21日(木) 和歌山市立四箇郷北小学校より小学生73名(6年)が来館 ↑

平成21年

- ・ 8月11日(火) 第1回実行委員会(事業全体の検討/実行委員会メンバー(以下メンバーとする)10名)
- ・ 8月18日(火) レクチャー及びワークショップ「見て、知って、考えて -鑑賞とワークシート」講師:国立西洋美術館教育普及室長 寺島洋子氏、平塚市教育委員会学芸員端山聡子氏(メンバー14名+自主参加10名)
- ・ 9月12日(土) 第1回会合(昨年度の反省を行うとともに、今年度の方向性について協議/メンバー13名+自主参加4名)
- ・ 9月26日(土) 第2回会合(国立西洋美術館にて、親子を対象としたワークショップ(ファミリープログラム)を調査/メンバー11名)
- ・ 10月 3日(土) 第3回会合(教材の判型や仕様などについて協議/メンバー13名+自主参加2名)
- ・ 10月18日(土) 第4回会合(カードに使用する作品について作品図版やカタログを見ながら協議/メンバー7名)
- ・ 10月31日(土) 第5回会合(候補のカードの試案を作成しながら、カードにする作品を絞り込んでいった。/メンバー9名+自主参加8名)
- ・ 11月14日(土) 第6回会合(カードにする作品をほぼ決定し、作成作業を行った。/メンバー4名+自主参加1名+作業アルバイト5名)※作業アルバイトによる教材制作作業が始まる。平成21年11月14日～平成22年1月5日まで、のべ59名(6名の学生)が参加。
- ・ 11月28日(土) 第7回会合(カード裏面の内容について協議/メンバー7名+自主参加2名+作業アルバイト5名)
- ・ 12月 3日(木) 第8回会合(京都造形芸術大学にて、フォーラム「教育的視点から見た関西の美術館・博物館の普及事業 -草創期を探る」及びワークショップ資料展を調査し、その後、会合/メンバー7名+自主参加1名)
- ・ 12月 6日(日) 第9回会合(カード作成作業/メンバー5名+作業アルバイト5名)
- ・ 12月 9日(水) 第10回会合(カード作成作業、言葉遣い等についても検討/メンバー6名+作業アルバイト2名)
- ・ 12月12日(土) 第11回会合(実際に作品見ながら内容について修正/メンバー9名+自主参加1名+作業アルバイト3名)
- ・ 12月16日(水) 平成21年度美術館・博物館活動基盤整備支援事業報告会(大阪大学中之島センター/メンバー2名)

平成22年

- ・ 1月13日(水) 鑑賞カードセット納品
- ・ 1月21日(木) バスにて来館、教材を使ったワークショップ:和歌山市立四箇郷北小学校(小学生73名(6年)+教員3名)
- ・ 1月22日(金) バスにて来館、教材を使ったワークショップ:海南市立南野上小学校(小学生27名(1年～6年)+教員7名+自主参加4名)
- ・ 1月29日(金) バスにて来館、教材を使ったワークショップ:田辺市立近野小学校(小学生27名(1年～6年)+教員4名)
- ・ 2月 5日(金) 第12回会合(上富田町立市ノ瀬小学校より来館のための事前打合せ/メンバー4名)
- ・ 2月 9日(火) バスにて来館、教材を使ったワークショップ:紀の川市立上名手小学校(小学生15名(3年～4年)+教員3名)

- ・ 2月12日（金） バスにて来館、教材を使ったワークショップ：上富田町立市ノ瀬小学校（小学生63名（4年～6年）+教員5名）
- ・ 2月20日（土） 第2回実行委員会（事業報告とまとめ/メンバー9名）



↑ 1月22日（金） 海南市立南野上小学校より小学生27名（1年～6年）が来館

1月29日（金） 田辺市立近野小学校より小学生27名（1年～6年）が来館 ↑

（2）参加者の数

参加者人数 延べ4,334人 内訳：幼児72人 小学生954人 中学生78人 高校生112人 大学生76人 一般2,232人 高齢者684人
障害者126人 ※平成22年1月13日（鑑賞カードセット納品）～2月27日（事業期間終了）までの展覧会来館者数

（3）事業により作成した印刷物等

種別：コレクション鑑賞教材 タイトル：『鑑賞カードセット』（A5判カード13枚、シール、冊子、フォルダ）

部数：5,500部



※赤、緑、青の3色のフォルダを作成した。中身はそれぞれ同内容。

(4) 実施事業に関する新聞記事等

○新聞記事



↑ わかやま新報 平成21年8月21日6面 「子どもの楽しい教材を 近代美術館と教員らが開発中」

わかやま新報 平成22年2月3日1面 「かわいいイラスト人気 ここはどこ鑑賞カード 子どもたちにプレゼント」 ↑

○テレビ、関連誌等

・テレビ和歌山

「教育広報テレビ番組『はばたく紀の国』学芸員さん、がんばってます！③（近代美術館編）」

ワークショップ「ここはどこ？」～コレクション鑑賞教材の制作・普及への取組～

平成21年2月28日午前10時00分～20分（20分程度放映）（3月28日再放送）

※上記の番組で、鑑賞カードセットに取り組む子どもたちの様子や、その制作過程が紹介された。

4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

コレクションの魅力をさまざまな視点から紹介するシリーズ「美術百科」の8回目、『美術百科「ここはどこ」の巻』展にあわせて、コレクション鑑賞教材『鑑賞カードセット』（A5判カード13枚、シール、冊子、フォルダ）を制作した。

制作にあたっては、「地域のコレクションの魅力を親しみやすく、わかりやすい形で県民に伝え、共有する」というミッションのもとで、地域の学校教員やNP0、学生、ボランティアらと約6ヶ月間にわたる調査・協議・作業を重ねる協働事業をおこなった。イラストや編集にあたっては、作業アルバイトの学生たちが活躍した。

アンケートでは、「12までのカードを書いたのがとっても楽しくておもしろかったです」（9歳・女性）「クイズがとっても楽しくできた」（13歳・女性）「デザインが可愛く、中の内容も分かりやすく、とてもワクワクしながら鑑賞できました」（19歳・女性）「あのセットは少しお金をとっても売ってほしい」（40歳・女性）などの意見が聞かれた。教材の対象は小学生をメインとしたが、その家族や一般来館者の作品理解にも、教材は十分に役立つものとなった。本事業は、まさに制作されたオリジナルな鑑賞教材を通じてコレクション（和歌山県の文化資源）の魅力を、制作チーム（地域の教員やボランティア等）及び利用者（児童生徒、一般来館者）と共有することによって地域文化の活性化に寄与する取組みとなったといえる。事業によって形成された館外協力者とのネットワークを、いかに当館の活動に活かしていくかが今後の課題である。

また、バスをチャーターして、例えば、当館まで片道で3時間程かかるような田辺市立近野小学校など、普段なかなか来館できない遠方の小学生たちを当館へと招き、同教材を用いたワークショップを開催できたことは、大きな成果であった。今回はモデル校5校からの来館が可能となったが、バスのチャーターも含めて、今後、遠方の児童と美術館とがどのようにつながり、美術を普及していくのかということも今後の課題である。来館できないとしても、例えば、教材をホームページからダウンロードすることで、遠方においても簡易に教材を入手できる方法など、様々な可能性を検討していきたい。